



# 2019年 7月人権一口講座



## ある日の市電で

街中の電停から、市電（低床車両だったので中央部分に優先座席があるタイプ）に乗り家に帰ろうとしていた。午後4時過ぎになると学生さん達も数多く乗り合わせていたが、その中に学生帽を被った小学生が居て優先座席にちょこんと座っていた。市電の運転士は「座席は空かない様お座りください」とアナウンスしていた。私は両手に買物袋を3つ下げリュックも背負っていたが「背中のリュックは車内通路が通りにくくなるといけないだろうな。」と前抱えし、下げていた買物袋を両足の間に置き、電車の窓側にぐっと寄り立っていた。

しばらくすると「チャリン、チャリン」と硬貨が床に落ちる音が幾度も前方から聞こえてきた。どうやら、酔った高齢男性が電車賃を手握りしめていたが、隣席の女性に絡んで話しながら手を左右に動かした際、硬貨が手からこぼれ落ちたらしかった。その女性は困っている様子だったが、なにしろ夕方近くの電車は混雑しており席を移動することもできない様子。ちょっと苦笑いしながらも酔った高齢男性の相手をされていたが、本当にそこで降りるはずだったのか分からないものの、女性は次の停留所ですと降車された。

酔った高齢男性は、今度は降りようと電車前方に移動してきた小学生に絡み始めた。小学生は進行方向を真っすぐに見つめ立っていたように、電車中央にいた私からは見えた。また「チャリン、チャリンチャリン」と音がした。よく見えなかったが小学生の足元にも硬貨が転がっていったようだった。

鉄道と連絡する電停に着き、小学生が降りたことが分かった。窓の外に小学生の姿があったが、その横に酔った高齢男性が立ち、何かをつぶやきながら小学生の肩をつかみ大きく揺さぶる姿が見えた。みるみるうちに小学生の顔がこわばり下を向いてしまった。高齢男性は小学生をボンと突き飛ばして干鳥足で横断歩道を渡り、住宅街へと立ち去っていった。

すると、運転席側のミラーで子どもの姿を確認した運転士が立ちあがり、電車の外に出てその小学生に寄り添った。何かを話しかけている。小学生は涙をためつつむいていたが、運転士の声かけに顔がどんどん上がってきた。小学生の上がったその顔を見て、運転士は肩を優しくそっとなで運転席に戻った。「しばらくお待ちせしました。発車します。」多くの乗客は一部始終を見たわけではないが、運転士が運転席から離れ子どもに寄り添った時間に対し、文句をいう人など一人もいなかった。

乗客にさっと優しく対応してくれた運転士さんに心が打たれた。私も何かあったらさっと動きたいと思うのだが行動することは難しい。けれど、こんな身近な所でさりげない優しさと言葉かけにより、小学生の心に大きなキズとして残らぬようにしてくれた運転士さんに、「人として」の感謝の気持ちを持ったことは間違いないかった。

“伝えたいなあ、この気持ち。”と思う、「今日はありがとうございました！」そう言って電車を降りた私であった。

## 短いメッセージ

夏休みに 毎日来てくれた君 気がつくとなりにいた君 友達っていいもんだなあ

熊本市・熊本市教育委員会・熊本市人権啓発市民協議会 人権カレンダー 日吉小学校4年 今村 烈墨さん（平成30年度の作品より）